

高校生の宗教意識に関する研究

——宗教教育の効果——

石黒 鈺二

酒井 亮爾

山田 ゆかり

一、研究の目的

この研究の目的は、男女高校生について、学校で宗教教育を意図的計画的に実施している場合に、それをしていない高校に比べて、その宗教意識にどのような差異がみられるかを明らかにすることである。

わが国では憲法で信教の自由が保障されており、そのため公立学校では教科課程の中に宗教教育を組み入れることはできないことになっている。しかし私立学校では宗教系の学校において宗教教育をすることが法的に認められており、仏教・キリスト教などの教理や宗教儀礼、人生観や世界観に基

高校生の宗教意識に関する研究（石黒・酒井・山田）

づく宗教教育あるいは人格形成をめざす教育が行なわれている。もちろん公立学校においても宗教に関する知識や文化遺産について教えないわけではなく、高校の歴史や倫理社会の教科書において、過去の宗教に関する叙述が少なからずある。その内容は特定の立場に立つことなく、適正かつ客観的であって、とくに反宗教的な立場からの叙述もない。しかし現代の文化と社会と宗教に関連する記述はほとんどないといわれる。（増谷文雄、一九七五）高校教科書の作者は現代の宗教にふれることを故意に避けているようにみえる。すなわち現代社会に関しては無・宗教教育（宗教ぬきの教育）であるといえるべきであろう。従って現代社会に生きる青年に対す

る宗教教育は、全く家庭教育と社会教育（その多くは偶発的であり、無意図的であるが）に委ねられている。しかしそれが逆に学校における宗教教育の空白を埋めるものとして大きな力を持つ場合のあることも忘れてはならないだろう。

ところで私立高校の宗教教育は、設立者の意図する特定の宗教（仏教とかキリスト教）に基づき教育であって、あらゆる宗教の教理を公平に持ち込む一般的宗教教育ではない。また一般に宗教教育という時、信徒に対する特定の教理や儀礼の体得をめざす場合もあり、信徒でない者に対する布教や入信を目標とする教育もある。しかし私立高校における宗教教育は、布教や入信を目標とするのではなく、特定の宗教の人間観や世界観や宗教教理に基づきながら、人格形成をはかることを目標とするものが多い。時には公立学校とほとんど変らぬ進学指導重視の、知識偏重の教育に偏向している場合も無いとはいえないけれども。

ここで取り上げた高校は曹洞宗系の学校であって、そこで宗教教育の目標は、宗教とくに仏教の教理や儀礼への理解を深め、禅の精神に基づく人格の形成を助けることにある。そのため教科課程の中に宗教科（仏教）を入れて指導するほか、宗教上の儀礼や行事に参加させるなど、組織的・計

画的に宗教教育を実施している。

このような宗教教育が、「無・宗教教育」と考えられる公立高校の教育と比べて、高校生の宗教意識にどのような変化をもたらすかを知ることが、宗教教育の成果を明らかにし、その望ましいあり方を探るだけでなく、人格形成にはたす宗教の役割を知る上にも有意義なことと思われる。このような研究は長期間にわたりその教育効果を追跡調査することによって明確となるはずであるが、今回はまずその手はじめとして、現在宗教教育を受けつつある高校生（2年生）を対象として、探索的な調査を試みることにした。

なおここで調査対象校となった宗教教育実施の高校は、男子校と女子校に分かれており、男子校は名古屋市内に、女子校は東京都区内にあって、宗教教育の内容には共通なものが多いが、いくらかの違いがみられる。

A 高校（男子）

宗教の時間は毎週一回一時間（年一単位）で、三年間に合計三単位を修得させる。教科書は村上重良著「世界の宗教」（岩波書店）を用い、水野弘元著「文教入門」を併用している。一週一回講堂で礼拝を行うほか、三仏忘と成道会（二月八日）の計四回講堂で式典を行う。三仏忌とは降誕会（四月八

日)、両祖忌(九月二十九日)、涅槃会(二月一五日)である。また一年生の時、一泊二日の日程で永平寺参禅を実施している。このような学校行事や教科課程を通して、仏教の教理や儀礼への理解を深め、禅の精神に基づき人格の形成をはかるうとしているのである。

K 高校(女子)

A 高校と同じく毎週一回一時間、三年間にわたり「仏教」の時間を設け、また三仏忌と成道会の式典を行なっている。永平寺への参拝旅行も一年の時行なう。教科書としては修証義その他二、三の経典を用い、早朝参禅会(撰心会)も行う。目標に「明朗、勤勉、清楚、誠実な近代女性を養成する」(傍点筆者)とあるほかは、ほぼ男子校と同等の教育方針に従っているとみてよからう。

二、方法

一、調査項目の選定と質問紙の作成

この研究は宗教に関する教育課程の効果を指導内容に即して評価しようとするものではない。宗教教育の成果として、高校生の「宗教意識」にどのような変化がもたらされたかを知らうとするものである。この場合、宗教教育を受けない高

高校生の宗教意識に関する研究(石黒・酒井・山田)

校生と比較するので、仏教の教理や儀礼に関する知識や理解の評価に深入りすることを避け、より一般的な宗教的信念や信仰あるいは宗教的行為に限定して調査することにした。そこでこの要請に応えうるものとして、さきに作成した宗教意識に関する質問紙を用いる。(石黒・一他、一九八四)それは次のような観点と内容をもって作成されたものである。

宗教意識は多次元の宗教経験の複合体であって、経験的次元・イデオロギー的次元・儀礼的次元・知的次元・信仰の成果の次元から成っている。ただし信仰の成果の次元は前の四つの次元の中でとらえうると考えられる。これはまた活動の様相から、内面的な知的・イデオロギー的次元と経験的・儀礼的次元とに大別される。ここでは前者を宗教的信念と信仰、後者を宗教的実践と名づける。両次元は九つの下位領域を含むと考え、それぞれに数問ずつを設定して次のような四五問からなる質問紙が作成された。(括弧内は質問項目の番号である。)

A、宗教的信念と信仰

- (一) 一般的宗教的信念(一―六)
- (二) 宗教的信念の認否(七―一二)
- (三) 宗教と科学(一三―一七)

- (四) 信仰(一八～二二)
- (五) 寺院(神社・教会)の意義と役割(二三～二八)

B、宗教的实践

- (一) 宗教経験(体験)(一～五)
- (二) 宗教的行為
 - a、個人的宗教的行為(六～一〇)
 - b、宗教儀礼への参加(一一～一四)
 - c、呪術(一五～一七)

なお呪術については、神觀念の介在の有無に基づいて宗教と区別しようとする意見もあるが、呪術の中にも宗教的なものを含むことがある、宗教の中にも呪術的なものを含むことがある、理論的に峻別しがたいこと、また青年の神秘体験や現世利益的祈願への関心が高まりつつあること考慮してこれを加えることにした。

以上各領域の質問文作成に当たっては、主として次の文献を参照した。

- NHK(一九八〇)、朝日新聞(一九八一)の各調査
- Faulkner, J. E. and DeLong, G. F. (1965)
- Glock, C. and Stark, R. (1966)
- King, M. and Hunt, R. (1969)

Robinson, J. P. and Shaver, P. R. (1973)

質問紙の様式は末尾の付録に示す。

なお質問紙の作成にあたっては、とくに内容が仏教・神道・キリスト教のいずれをも包括しうるように表現上の配慮をした。またこの調査が信教の自由、および思想・信条の自由を侵すおそれを感じさせないように、とくに無記名方式を採用し、調査時にも被調査者にそのことを付言して理解を求めた。

二、調査対象

前述のように、宗教教育を実施している調査対象の高校はA男子校(名古屋)とK女子校(東京)であるが、宗教教育を実施していない公立高校の調査対象はこれと社会的・宗教的環境の近似した地域から選んだ。すなわち名古屋市内の住宅地域の中心にあるM高校と近郊にあって種々の職種階層住民を含む地域のN高校がそれである。両校はいずれも男女共学である。調査対象の人数を表1に示す。

また調査対象の家の宗教を本人が記入した結果は表2に示す。表中「なし」には「わからない」と無記入が含まれる。K校とM校に「なし」が多いが、これには「わからない」という応答が多く含まれているけれども、記入の拒否もあるか

表1 調査対象の人数

		男	女	計
宗教教育有	A高	135	—	135
	K高	—	127	127
	計	135	127	262
宗教教育無	N高	65	55	120
	M高	73	74	147
	計	138	129	267

三年三月)。

三、結果と考察

(一)、項目別応答結果の概要

調査Aは宗教意識の高いと考えられる回答から順次54321の得点を与える。調査Bは「いつも」から「まったくない」まで順次4321の得点とする。無応答は調査Aでは3点、調査Bでは1点とする。いずれも極めて少数であった。各項目の平均得点を表3—1(調査A)、表3—2(調査B)

高校生(石黒・酒井・山田)

もしれない。

三、調査者

調査は大部分研究者自身の手で実施したが、一部対象校の先生方の援助を受けた場合もある。

四、調査期日

A校(一九八四年七月)、K校(一九八五年二月)、M校(一九八五年二月)、N校(一九八

に示す。表中逆転項目とは、上述の採点とは逆に12345と数える項目である。各項目毎に宗教教育有と無の両者間の差を χ^2 検定によって確かめ、有意差のある項目だけ抽出してまとめたのが表4である。

表4でみると、宗教教育有が無より高い項目数は全体(19)、男(11)、女(12)と多く、宗教的信念と信仰および宗教的実践のすべての領域に

表2 家の宗教(%)

教育 宗教	宗教教育有			宗教教育無						宗教教育無		
	男	女	計	男			女			計	N	M
				A	K	男+女	N	M	計			
仏教	79.3	30.7	55.7	83.1	61.6	71.7	80.0	74.3	76.7	74.2	81.7	68.0
神道	3.7	5.5	4.6	1.5	2.8	2.2	5.5	5.4	5.4	3.7	3.3	4.1
仏教と神道	3.0	18.1	10.3	0	0	0	0	1.4	0.8	0.4	0	0.7
キリスト教	0.7	5.5	3.1	1.5	4.1	2.9	3.6	0	1.6	2.2	2.5	2.0
その他	1.5	5.5	3.4	9.3	8.2	8.7	7.3	0	3.1	6.0	8.3	4.1
なし	11.8	34.7	22.9	4.6	23.3	14.5	3.6	18.9	12.4	13.5	4.2	31.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表 3-1 宗教教育による差—(A+K):(M+N)

領域	調査 A	宗教教育				男子				女子			
		有		無		宗教教育有		宗教教育無		宗教教育有		宗教教育無	
		A+K		M+N		A		M+N		K		M+N	
		平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
一般的宗教的信念	1	3.52	0.92	3.23	0.96	3.39	1.05	3.05	1.07	3.65	0.74	3.42	0.78
	*②	2.21	0.86	2.35	0.88	2.18	0.97	2.34	0.94	2.25	0.73	2.36	0.81
	*③	3.31	0.87	3.46	0.86	3.39	0.90	3.57	0.93	3.22	0.83	3.33	0.75
	4	3.15	0.94	3.16	0.98	3.09	1.06	2.96	1.05	3.20	0.78	3.38	0.86
	5	2.82	1.35	2.60	1.28	2.61	1.41	2.45	1.33	3.04	1.24	2.77	1.20
	6	3.80	1.02	3.37	1.08	3.57	1.06	3.16	1.16	4.04	0.92	3.60	0.94
	平均	3.32		3.09		3.17		2.91		3.48		3.29	
宗教的信条の認否	7	3.24	1.08	2.85	1.01	2.90	1.11	2.68	1.01	3.59	0.93	3.02	0.99
	8	3.13	1.05	2.87	0.98	2.86	1.07	2.72	1.08	3.42	0.95	3.03	0.83
	9	2.52	1.04	2.42	1.03	2.70	1.07	2.51	1.11	2.32	0.97	2.33	0.93
	10	3.13	1.01	2.95	0.98	2.81	1.02	2.79	1.03	3.47	0.89	3.12	0.89
	11	2.71	0.93	2.64	0.92	2.54	0.96	2.52	0.99	2.88	0.85	2.76	0.82
	*12	2.38	0.92	2.42	0.92	2.39	0.99	2.31	0.98	2.37	0.84	2.53	0.84
	平均	2.85		2.69		2.70		2.59		3.01		2.80	
宗教と科学	13	2.46	0.86	2.29	0.75	2.23	0.93	2.18	0.79	2.70	0.70	2.41	0.68
	*⑭	3.57	0.89	3.74	0.82	3.78	0.95	3.90	0.83	3.35	0.77	3.57	0.77
	*15	3.60	1.11	3.82	1.01	3.42	1.20	3.67	1.14	3.79	0.99	3.98	0.81
	*16	2.80	0.91	2.78	0.91	2.76	1.04	2.61	0.94	2.83	0.75	2.97	0.83
	17	2.44	0.93	2.57	0.93	2.57	1.00	2.58	1.03	2.31	0.84	2.56	0.81
	平均	2.83		2.87		2.75		2.76		2.91		2.98	
信	18	2.90	1.09	2.79	1.09	3.04	1.09	2.65	1.08	2.76	1.06	2.95	1.07
	19	2.13	0.94	1.93	0.83	1.98	0.90	1.84	0.80	2.28	0.96	2.07	0.85
	20	3.40	0.88	3.19	0.91	3.33	0.96	3.12	0.96	3.46	0.79	3.26	0.86
	21	2.45	0.84	2.33	0.78	2.43	0.86	2.25	0.83	2.48	0.82	2.41	0.71
	22	2.25	0.83	2.21	0.82	2.21	0.84	2.12	0.83	2.28	0.82	2.30	0.79
仰	平均	2.63		2.49		2.60		2.40		2.65		2.59	
寺院・教会の役割	23	2.64	0.84	2.41	0.82	2.61	0.94	2.36	0.86	2.68	0.72	2.47	0.77
	24	2.90	0.90	2.55	0.88	2.80	0.94	2.41	0.88	3.01	0.85	2.71	0.85
	25	3.11	1.01	2.72	0.93	2.76	0.95	2.60	0.99	3.49	0.94	2.84	0.84
	*26	3.08	0.85	3.03	0.81	3.03	0.91	2.92	0.89	3.13	0.79	3.16	0.71
	27	2.81	0.80	2.66	0.74	2.71	0.88	2.57	0.82	2.91	0.70	2.76	0.64
	*28	2.74	0.89	2.70	0.84	2.64	0.96	2.58	0.92	2.85	0.79	2.84	0.71
	平均	2.88		2.67		2.87		2.57		3.01		2.80	

高校生の宗教意識に関する研究(石黒・酒井・山田)

(注) *印：逆転項目。
○印：領域別の集計から除外。

表 3—2 宗教教育による差—(A+K):(M+N)

高校生の宗教意識に関する研究(石黒・酒井・山田)

領域	調査 B	宗教教育				男子				女子			
		有		無		宗教教育有		宗教教育無		宗教教育有		宗教教育無	
		A+K		M+N		A		M+N		K		M+N	
		平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
宗教 経 験	1	2.03	0.96	1.87	0.93	2.06	0.99	1.71	0.87	1.99	0.93	2.03	0.96
	2	2.00	0.86	1.86	0.93	1.93	0.85	1.70	0.92	2.08	0.86	2.03	0.96
	3	1.78	0.83	1.56	0.79	1.81	0.87	1.54	0.84	1.76	0.77	1.59	0.73
	4	1.97	0.94	1.76	0.90	1.96	0.95	1.64	0.87	1.98	0.93	1.90	0.91
	5	1.36	0.73	1.30	0.69	1.41	0.74	1.33	0.73	1.30	0.70	1.27	0.66
	平均	1.83		1.67		1.83		1.58		1.80		1.76	
個人的 宗教的 行為	6	1.30	0.63	1.27	0.55	1.35	0.67	1.24	0.55	1.25	0.57	1.29	0.56
	7	1.33	0.69	1.20	0.57	1.28	0.64	1.20	0.63	1.39	0.74	1.19	0.50
	8	1.77	1.04	1.44	0.72	1.36	0.66	1.40	0.71	2.21	1.17	1.48	0.74
	9	1.46	0.66	1.32	0.62	1.45	0.67	1.28	0.57	1.46	0.64	1.37	0.66
	10	1.52	0.71	1.41	0.67	1.36	0.62	1.38	0.64	1.69	0.77	1.45	0.69
	平均	1.48		1.33		1.36		1.30		1.55		1.36	
宗教 儀 礼	11	1.38	0.70	1.40	0.74	1.36	0.66	1.39	0.77	1.41	0.74	1.42	0.70
	12	1.29	0.71	1.16	0.58	1.38	0.75	1.15	0.58	1.20	0.65	1.16	0.58
	13	2.24	1.09	2.08	1.05	1.99	0.93	2.00	1.02	2.51	1.18	2.17	1.06
	14	1.57	0.97	1.23	0.59	1.21	0.52	1.27	0.64	1.95	1.16	1.19	0.52
	平均	1.62		1.47		1.49		1.45		1.77		1.49	
呪 術	15	2.66	0.90	2.52	0.90	2.46	0.88	2.33	0.96	2.98	0.80	2.71	0.78
	16	2.73	0.86	2.53	0.84	2.43	0.87	2.30	0.85	3.05	0.72	2.77	0.75
	17	2.71	1.11	2.44	1.06	2.24	1.09	2.22	1.13	3.20	0.90	2.68	0.93
	平均	2.70		2.50		2.34		2.28		3.08		2.72	

表4 宗教教育の有・無により有意差のある項目

有 > 無 の 項 目		全体	男	女	領 域
A	1 神（仏）があると信じている	**	*		宗教的信念
	6 死後にも魂が残る	***	**	**	
	7 天国（極楽）と地獄がある	***	*	***	宗教的信条
	8 神（仏）は信ずる人に報いる	**		**	
	10 神（仏）は慈愛をもってまもる	*		*	
	11 神（仏）の救いで自由になる		*		
	13 進化論は社会に有害である			*	宗教と科学
	18 信仰あれば安心して死ぬる		*		信 仰
	19 祈りは問題解決を助ける	*			
	21 信仰に迷う人の救済は義務	*			
23 寺院（神社）は人間関係をよくする	*			寺院の役割	
24 寺院（神社）は安息の場所	***	*			
25 結婚式は寺院（神社）がよい	***		***		
B	1 神（仏）の存在を感ずる		*		宗教経験
	2 神（仏）の助けを感ずる	*	***		
	3 神（仏）の恐ろしさを感じずる	**	*		
	4 神（仏）の罰を感ずる		*		
	7 家族に自分の宗教活動を話す	*			個人的宗教的行為
	8 聖書や経典を読む	***		***	
	9 事件と宗教の関係を考える	*			
	12 食事の時感謝の祈りをする	**	***		宗教儀礼
	13 宗教上のきまった日に墓参			*	
	14 寺院（神社）の宗教行事に参加	***		***	
15 安全や入試合格を祈願			*	呪 術	
16 おみくじや占いをする	*		*		
17 お守りやおふだを身につける	***		***		
有 < 無 の 項 目		全体	男	女	領 域
A	4 神，仏，天は偉大な力をもつ			*	宗教的信念
	14 進化論は人間以外の生物に妥当 17 無神論は社会に有害	**		*	宗教と科学
B	11 祭日などに寺院（神社）に行く		**		宗教儀礼

(注) χ^2 検定による有意水準，*5%，**1%，***0.1%

高校生の宗教意識に関する研究（石黒・酒井・山田）

わたっている。これに対して宗教教育無が有より高い項目数は全体(1)、男(1)、女(3)で大変少なく、それはAの「4、神・仏・天は偉大な力をもつ」、14、進化論は人間以外の生物に妥当」、17、無神論は社会に有害」とBの「11、祭日などに寺院(神社)に行く」という四項目だけである。

高校における宗教教育は、神(仏)の存在と靈魂の不滅を信じ、地獄・極楽と信仰による救済とそれに関与する寺院(神社)の役割を認め、さらに宗教的实践を促進する方向に働いているように見える。

この結果を見易くするため、領域別に項目得点を集計して図示したものが図1である。

調査Aの項目2、3、14は条件つき命題であって解釈が一般的にできないのでこの集計から除いた。図では得点の高い方が宗教意識の高いことを示す。一般的にみて宗教的信念と呪術が高く、信仰と個人的宗教的行為および宗教儀礼が低い。宗教教育有の高校生は無のそれに比べて、宗教的信念と信条、信仰と寺院および個人的宗教的行為と宗教儀礼への参加で、男女とも高くなっている。また男子は宗教経験で、女子は個人的宗教的行為と宗教儀礼および呪術で、宗教教育有の方が高い。ここに宗教教育の効果が表われているとみるこ

高校生の宗教意識に関する研究(石黒・酒井・山田)

とができよう。ただし宗教系の私立高校を志願する者の家ではとくに宗教的関心が強く、それがこの結果をもたらしているという疑いも持たれる。しかし表2の「家の宗教」の比率を見るかぎり、そのような差異がありそうに思えない。

なおこの結果を、日本宗教学会の高校生に対する調査(増谷文雄、一九七五)と比べると、両調査で共通な項目のうち、「靈魂不滅」(A6)は宗教教育有が無より高く同傾向を示す。「罪の意識」(A9)では増谷調査は宗教教育有が無にまさるとしているが、本調査はその差を認めない。「現世利益」(B15)と「占い」(B16)は両方とも宗教教育有が無にまさっており、似た傾向である。「神仏の实在」(A1)では本調査は宗教教育有の方が高いが、増谷調査は両者にほとんど差を認めない。

両調査は質問項目の文章表現にも微妙な違いがあり、調査対象の選択にも違いがあるので、その異同をもたらしただ要因を探ることは必ずしも容易ではない。今後のより組織的な研究を必要とするであろう。

(二) 宗教的信念・信仰と宗教的实践との

相関について

宗教的实践が宗教的信念や信仰に基づいて行なわれるなら

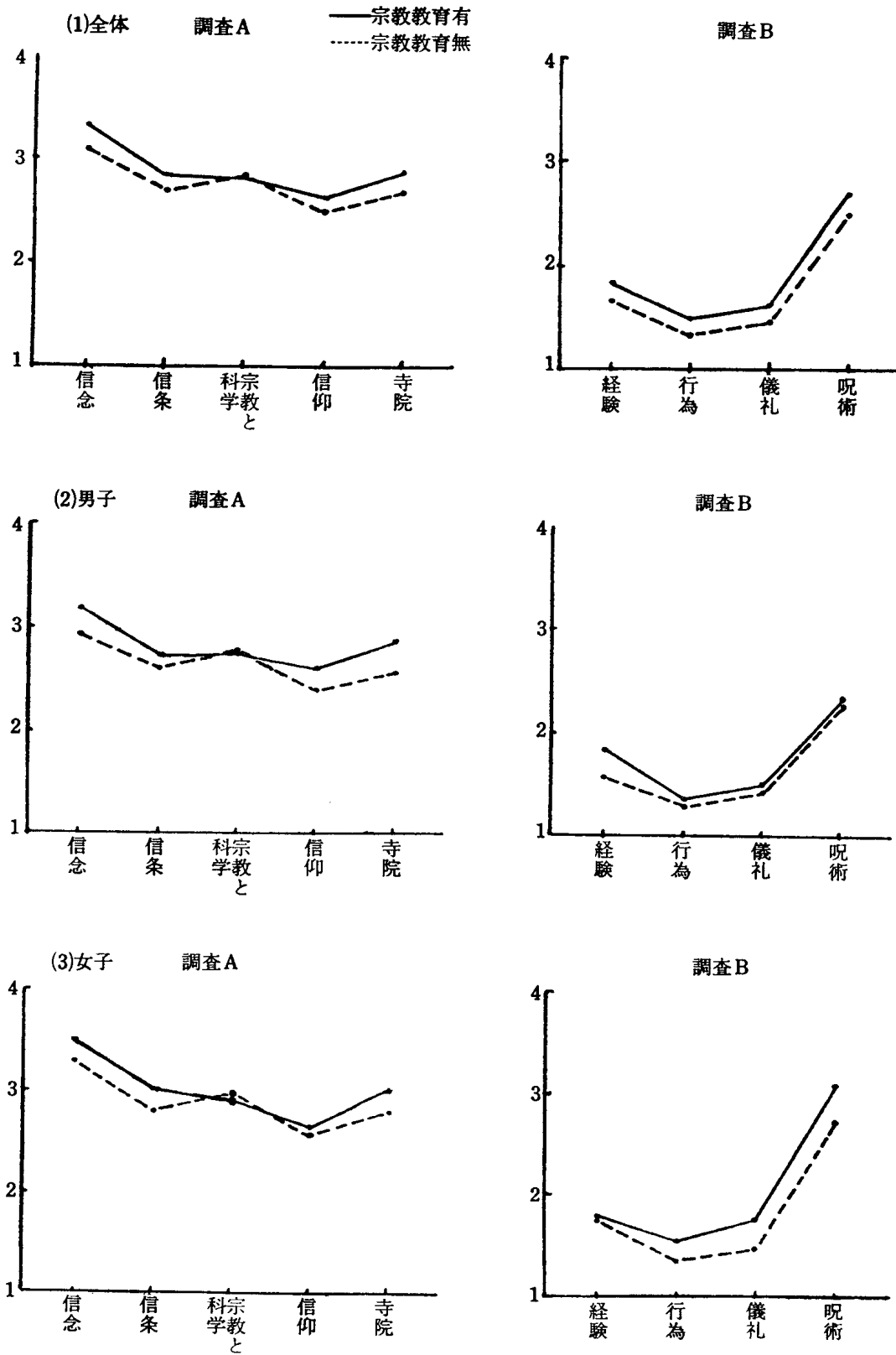


図1 宗教意識の領域別比較〔宗教教育有：宗教教育無〕

ば、その人の宗教的行動はより明確に組織化されていると考
えられる。逆に個人的宗教的行為や宗教儀礼への参加が、宗
教的信念や信仰の裏付けなしに行なわれているならば、その
人の宗教的行動は習慣化・形式化されたものであって、十分
内面化されていないものと考えられる。このような観点か
ら、調査Aの項目と調査Bの項目間の相関関係を調べてみよ
う。男女合わせて宗教教育有と無のそれぞれの相関係数を示
したものが表5-1と2である。また男子についてのそれは
表6-1と2、女子については表7-1と2に示した。

相関係数の信頼限界は人数が二〇〇の時、信頼水準0.5とす
れば、 $r=2(07\sim.33)$ 、 $r=3(17\sim.42)$ 、 $r=4(28\sim$
 $.51)$ である。また人数が一〇〇の時、 $r=2(10\sim.38)$ 、
 $r=3(10\sim.47)$ 、 $r=4(22\sim.56)$ となる。いずれも正の
相関であるが、「項目間の相関係数.3以上」という基準を設
けて、それに該当する項目を表示した。調査Aの項目とBの
項目の相関が高いということが、両項目間の因果関係を示す
というわけではないが、両者が密接な共存関係にあるという
ことはできる。

男女あわせてみた場合を表5でみると、調査B(宗教的実
践)の各項目と調査A(宗教的信念と信仰)の各項目の間で

高校生の宗教意識に関する研究(石黒・酒井・山田)

基準以上の相関のある項目は、総数では宗教教育有と無との
間にほとんど差がない。しかし宗教教育有では宗教経験や呪
術が信仰や寺院の役割の認知と結びついていることが注目さ
れる。すなわち、

A(18、信仰あれば安心して死ぬる、24、寺院は安息の場
所) || B(2、神(仏)の助けを感ずる)

A(25、結婚式は寺院がよい、27、寺院は社会正義のとり
で) || B(15、安全や入試合格を祈願)

次に男子について表6をみると、調査Bと調査Aの各項目
間の相関が上述の基準以上を示す項目数は、宗教教育有32、
無60で、後者がはるかに多い。宗教経験の1-3項目では両
者が共に多いが、個人的宗教的行為と宗教儀礼の項目では、
宗教教育無に六項目あるが、宗教教育有には基準以上の相関
を持つ項目が全くない。また呪術の項目では、宗教教育有が
「15、安全や入試合格を祈願」と「17、お守りやおふだを身に
つける」の項目で、信仰や寺院の項目との相関が見られるの
に、宗教教育無ではそれが無い。

次に女子について表7をみると、調査Bと調査Aの各項目
間の相関が上述の基準以上を示す項目数は宗教教育有14、無
15でほとんど差はない。しかし宗教教育有の方に、B宗教経

表5-1 調査Aと調査Bの項目間の相関

全体(男+女)：宗教教育有 N=262 (注) ○印：逆転項目

A \ B		宗 教 的 経 験					個 人 的 宗 教 的 行 為					宗 教 儀 礼				呪 術		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
宗一 教 的 般 信 念 的	1	.46	.36	.35	.31													
	②																	
	③																	
	4																	
	5																	
	6			.31														
信宗 条 の 教 認 否 的	7		.30															
	8																	
	9																	
	10			.44											.30	.43		
	11			.33														
宗 教 と 科 学	13																	
	⑭																	
	⑮																	
	⑯																	
	17																	
信 仰	18		.36	.32														
	19																	
	20																	
	21																	
	22																	
寺 院 教 会 の 役 割	23		.35												.32	.30	.34	
	24																	
	25																	
	⑳																	
	27																	
	㉑														.38			

高校生の宗教意識に関する研究(石黒・酒井・山田)

表5-2 調査Aと調査Bの項目間の相関

全体(男+女)：宗教教育無 N=267

A \ B		宗 教 的 経 験					個 人 的 宗 教 的 行 為					宗 教 儀 礼				呪 術		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
宗一 教 的 般 信 念 的	1	.50	.54	.36	.42										.34			
	②																	
	③																	
	4		.34															
	5																	
	6																	
信宗 条 の 教 認 否 的	7				.31										.30			
	8																	
	9																	
	10		.46	.54	.32	.38				.31					.33			
	11		.39	.47	.32	.34												
宗 教 と 科 学	13																	
	⑭																	
	⑮																	
	⑯																	
	17																	
信 仰	18																	
	19																	
	20																	
	21																	
	22												.30					
寺 院 教 会 の 役 割	23																	
	24																	
	25																	
	⑳																	
	27																	
	㉑																	

表6-1 調査Aと調査Bの項目間の相関

男子：宗教教育有 N=135

高校生の宗教意識に関する研究(石黒・酒井・山田)

A \ B	B	宗教的経験					個人的宗教的行為					宗教儀礼				呪術		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
宗一 教的般 信念的	1	.58	.35	.38														
	②																	
	③	-.31																
	4			.37	.36													
	5																	
	6				.38													
信宗 条の教 認否的	7	.30																
	8	.36																.32
	9																	
	10	.33	.51															.47
	11	.32	.34															.36
	⑫	-.33																
宗教と科学	13																	
	⑭																	
	⑮																	
	⑯	.30																
	17																	
信 仰	18	.39	.39															.42
	19																	
	20																	
	21		.37															.35
	22		.37															
寺院教会の役割	23		.32															.32
	24		.32															
	25																	
	⑳	-.33	-.37															
	27																	
	㉑		-.35															

表6-2 調査Aと調査Bの項目間の相関

男子：宗教教育無 N=138

A \ B	B	宗教的経験					個人的宗教的行為					宗教儀礼				呪術		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
宗一 教的般 信念的	1	.57	.57	.49	.46						.31	.39	.38	.30		.39	.35	
	②																	
	③																	
	4	.38	.31	.35	.31									.31				
	5																	
	6																	
信宗 条の教 認否的	7	.38	.36		.31													
	8																	
	9	.53	.56	.41	.38									.31				.35
	10	.45	.52	.41	.40						.37	.41		.30				.34
	11										.41	.38						.35
	⑫		-.31															-.41
宗教と科学	13																	
	⑭																	
	⑮																	
	⑯	-.34																
	17			.31														
信 仰	18	.38	.32	.33							.40	.33	.36		.48			
	19																	
	20																	
	21		.36	.37	.30								.31	.32		.35		
	22		.36	.37	.30						.34			.32		.41		
寺院教会の役割	23																	
	24																	
	25			.31														.34
	⑳																	-.31
	27																	
	㉑																	-.39

表7-1 調査Aと調査Bの項目間の相関

女子：宗教教育有 N=127

A \ B		宗 教 的 経 験					個人的宗教的行為					宗 教 儀 礼				呪 術		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
宗一 教的般 信念的	1																	
	②		.38	.32	.39		.30											
	③																	
	4																	
	5																	
信宗 条の教 認否的	6	.33	.32															
	7																	
	8		.34															
	9																	
宗 教と科 学	10																	
	11		.35															
	⑫		.31															
信 仰	13																	
	⑭																	
	15																	
	16																	
	17																	
寺 院教 会の 役割	18		.36	.40	.41													
	19																	
	20																	
	21																	
	22																	
寺 院教 会の 役割	23		.38															
	24																	
	25																	
	⑳																	
	㉑																	.44

高校生の宗教意識に関する研究(石黒・酒井・山田)

表7-2 調査Aと調査Bの項目間の相関

女子：宗教教育無 N=129

A \ B		宗 教 的 経 験					個人的宗教的行為					宗 教 儀 礼				呪 術		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
宗一 教的般 信念的	1																	
	②	.40	.46		.35													
	③																	
	4		.32															
	5																	
信宗 条の教 認否的	6																	
	7		.33															
	8																	
	9																	
	10	.35	.48		.35													
宗 教と科 学	11	.39																
	⑫	-.31	-.31		-.30													
	13																	
信 仰	⑭																	
	15																	
	16																	
	17																	
	18				.32									.31				
寺 院教 会の 役割	19																	
	20																	
	21																	
	22								.33									
	23																	
寺 院教 会の 役割	24																	
	25																	
	⑳																	
	㉑																	
	㉒																	

験(2、3、4)とA18(信仰あれば安心して死ぬる)との結びつきがある点注目される。

項目別あるいは領域別の比較においては、宗教教育有の方が宗教意識が高いとみられたのに、この相関による分析では宗教教育有の方が宗教的行動の組織化が進んでいるとは必ずしも言えないようにみえる。確かに宗教経験や呪術においては、宗教教育有の方が信仰や寺院の役割の認知と密接に結びついているようである。しかし個人的宗教的行為や宗教儀礼においては、宗教教育有の方にはほとんど全くといってよいほど宗教的信念や信仰との結びつきがみられない。かえって宗教教育無の方にこれらの項目と宗教的信念や信仰との結びつきが散見され、とくに男子ではBの7、9、11、14、などの項目に顕著にそれが見られるのである。従って男子に関しては、宗教教育無の方が宗教的行動の組織化が進んでいるとさえ言えそうである。

このような矛盾した結果をどう解釈したらよいであろうか。宗教教育を実施している高校では、宗教教育の一環として全員に経典を読ませ、食事の時感謝の祈りをさせ、また宗教行事に参加させている。このために十分な宗教的信念や信仰の裏付けを持たないままにこれらの行為をし、儀礼に参加

高校生の宗教意識に関する研究(石黒・酒井・山田)

するものの比率が多くなるわけで、従って調査AとBの項目間の相関が低くなったと考えられる。宗教教育無の方では、教育課程による強制がないから、家庭や社会で強制されない限り、宗教的信念や信仰なしに宗教的行為や宗教儀礼への参加をすることは少ないであろう。以上の理由から一見矛盾するような結果を生じたものと思われる。

ところでここでの調査対象は高校二年生であり、宗教教育を組織的に受け始めてから二年に満たないので、これをその教育が十分浸透していない過渡的な現象とみることもできよう。それでは高校三年の終了時にはどのように変化しているであろうか。それは今後の研究にまたなければならぬ。

いまひとつの問題は宗教教育において、形式化された個人的宗教的行為や宗教儀礼への参加を重視するという教育法についてである。これは長い宗教教団の歴史の中で、信徒の教育あるいは布教の経験に基づいて洗練された教育法として貴重なものである。ここにはこのような形式的訓練ないし実践が積み重ねられることによって、やがて徐々に宗教的行為が内面化されて信仰が深められ、あるいは突然の宗教的回心が生まれるという仮説が背景にあるように思われる。しかし学校教育という枠組の中にそれを導入した時、その仮説が成立

するだろうか、という疑問がある。これを検証することも今後の大きな研究課題であろう。

四、要 約

この研究の目的は学校で意図的計画的に宗教教育を実施している場合の高校生の宗教意識を、それをしていない場合のそれと比較することによって、宗教教育の効果を明らかにすることである。ここでとりあげた宗教教育は、仏教とくに禅の精神を根底とする人格の形成をはかろうとするものである。

調査対象はこのような宗教教育を実施している名古屋市内のA高校（男子）と東京都区内のK高校（女子）、およびそれを実施していない名古屋市内のM高校と同市近郊のN高校（いずれも男女共学）の二年生である。調査に使用した質問紙は「宗教的信念と信仰」と「宗教的実践」という宗教意識を構成する二つの次元にわたる九領域四五項目の質問文からなっている。調査期日は一九八三年三月から一九八五年二月にわたっている。

結果は次のようである。項目別に宗教教育有と無とを比較すると、全体としても、男女別にしてみても、宗教教育有の

方が高い宗教意識を示す項目数が多く、無の方が高い項目数は極めて少ない。総括すると、宗教教育は神（仏）の存在と霊魂の不滅を信じ、地獄・極楽と信仰による救済およびそれに関与する寺院（神社）の役割を認め、さらに宗教的実践を増大するという結果をもたらしているといえる。

領域別にみると、信念と信条、信仰と寺院の役割、宗教経験・宗教的行為・儀礼・呪術のいずれにおいても宗教教育有の方が宗教意識の高いことを示し、「宗教と科学」においてのみ、宗教教育の有無による差を認めない。男女別にみると、男子のみ宗教教育有がまさる領域は宗教経験で、女子のみまさる領域は個人的宗教的行為・儀礼および呪術である。

「宗教的実践」と「宗教的信念と信仰」の双方の項目間の相関が高い項目が多いほど、宗教的行動が組織化されているという基準で宗教教育有と無を比べると、全体では該当項目数も少なく両者にほとんど差はない。男子では宗教教育無の方に該当項目数が多く、しかも個人的宗教的行為と儀礼において多くみられるが、この二領域において宗教教育有では皆無である。女子では該当項目数が少なく、両者間にほとんど差がみられない。

注目されることは、宗教教育有の方は全体でも男女別で

も、「宗教経験や呪術」と「信仰や寺院の役割の認知」との間の相関項目がみられるのに、個人的宗教的行為や宗教儀礼にはそれがほとんどないことである。宗教教育を実施する学校では全員に宗教的行為や儀礼への参加を求めている。従ってそのような強制のない宗教教育無の高校に比べて、宗教的信念や信仰と宗教的行為とが乖離するものの比率が高くなり、そのために相関が低くなったと考えることもできる。この結果は二年生のものであるから、宗教教育の進んだ三年終了時には宗教的行為の組織化が増大しているかもしれない。それは今後の研究によって明らかにされるであろう。

付 記

この研究の実施にあたり、調査対象校の鶴飼泰勇、東隆真、林博明、加藤十八、刀根文雄、森幹夫の諸先生並びに生徒諸君から理解あるご援助・ご協力をいただいた。また調査結果の整理については大平一嘉氏のご協力をいただいた。ここに記して感謝の意をあらわしたい。

参考文献

朝日新聞（一九八一、五、五） 「宗教心と日本人」（世論調査）

高校生の宗教意識に関する研究（石黒・酒井・山田）

- Glock, C. and Stark, R. (1965) Dimensions of Religious Commitment in Christian Beliefs and Anti-Semitism. Harper and Row.
- 石黒鈇二・酒井亮爾（一九八四） 青年の宗教意識に関する日米比較研究、人間文化、第一巻、一〜二二
- 石黒鈇二（一九八五） 児童青年の宗教意識における性差と地域差、第一四号、一〜二八
- King, M. and Hunt, R. (1969) Measuring the Religious Variable: Amended Findings. Journal for the Scientific Study of Religion, 8.
- 増谷文雄編（一九七五） 現代青少年の宗教意識、鈴木出版
- NHK（一九八〇） 第2日本人の意識（NHK世論調査）
- NHK世論調査部編（一九八四） 日本人の宗教意識、日本放送出版協会
- Robinson, J. P. and Shaver, P. R. (1973) Measures of Social Psychological Attitudes. Survey Research Center, Institute for Social Research.

〔付録〕

宗教意識の調査

この調査は、あなたが宗教についてどのように考え、行動しているかを聞くものです。これは現代の人々の全体としての傾向を知るためのもので、あなたを個人として評価しようとするものではありません。自分の考えどおり、ありのままを答えてください。

愛知学院大学文学部心理学教室

性別	男・女	年齢	(満才)	最終学歴	() 卒, 修了, 在学
家族の職業	(父 母)	家の宗教	仏教, 神道, キリスト教, その他 ()		
調査年月日	(年 月 日)			なし	

高校生の宗教意識に関する研究 (石黒・酒井・山田)

A. [答え方] 次に宗教について28の意見があります。これらを1つ1つ読んで、あなたがその意見にどのくらい賛成か、またどのくらい反対か、あるいはどちらとも言えないかを判断して、それぞれ右の方にある線のあてはまる所に○印をつけてください。

非		ど		非
常		ち		常
に	賛	ら	反	に
賛	成	で	対	反
成	成	も	対	対
		な		
		い		

- 私は神(仏)があると信じている。
| | | | |
- 私は神(仏)は信じないが、生命の神秘性(ふしぎ)はたしかにあると思う。
| | | | |
- むかしは神(仏)があつていろいろなことをしたが、現代ではそういうことはない。
| | | | |
- 私はある人々が神(仏)と言い、他の人々が天と言うものが、私よりも大きな力をもっていると信じている。
| | | | |
- 人の一生は生まれたときから運命によってきめられている。
| | | | |
- 人間の魂は死んだ後にも残ると思う。
| | | | |
- 私はほんとうに天国(極楽)と地獄があると信じている。
| | | | |
- 神(仏)は信心深く生活する人に報いてくれる。
| | | | |
- 人は生まれつき罪深く、けがれたものである。
| | | | |
- 私は神(仏)がいつも慈愛をもって守ってくれていると思っている。
| | | | |
- 私は神(仏)の救いによって罪をゆるされ、新しい生活が自由にできるようになると信じている。
| | | | |

非 常 に 賛 成	賛 成	ど ち ら だ も な い	反 対	非 常 に 反 対
-----------------------	--------	---------------------------------	--------	-----------------------

12. 人は神（仏）を信じなくても、幸福で楽しい生活を送ることができると思う。
13. 進化論は道理に合わない考えであって、社会に害毒を流す。
14. 進化論は植物や動物にはあてはまるが、人間にはあてはまらないと思う。
15. 科学が進歩すれば、神秘的（ふしぎ）なものはすべて説明がつくようになる。
16. 宗教は科学的に考えることをさまたげる。
17. 神（仏）をまったく信じないという考えは、社会にとって有害である。
18. 宗教を信じていれば、死が近づいたときにも安心感をたもつことができる。
19. 多くのむずかしい問題は神（仏）に祈ることによって解決される。
20. ほんとうに信心深い人は、生活のあらゆる面で道徳的な行動をしようとしている。
21. 信仰について迷っている人を助けることは、私の義務だと思っている。
22. 寺院（神社、教会）の奉仕活動をすることは、私のたのしみである。
23. 寺院（神社、教会）は社会の人間関係をよくするのに、一番重要な場所である。
24. 寺院（神社、教会）は安息の場所、生活の苦しみをのがれる場所である。
25. 結婚式は寺院（神社、教会）でするのが一番よいと思う。
26. 寺院（神社、教会）は古くさい教義と中世的な迷信をたくさん押しつけようとしている。
27. 寺院（神社、教会）は個人や社会の正義を守り、押し進めるための強力なとりでである。
28. 寺院（神社、教会）は人の心を救うのに、十分なことをしているとは思わない。

B. [答え方] あなたが日ごろ宗教について、したり感じたりしていることについて答えてください。次の文を一つ一つ読んで、そのようなことが最近2, 3年間に、たびたびあったか、またはなかったかを思いかえしてみ、右の方にある線のあてはまる所に○印をつけてください。

と	ま	
い	き	ま
つ	ど	れ
も	き	に
		ま
		た
		く
		な
		い

- | | |
|--|-------|
| 1. 私は何らかの形（人間の姿やそれ以外のもの）で、神（仏）が実際にあると感ずる。 | _ _ _ |
| 2. 私は神（仏）の助けを受けていると感ずる。 | _ _ _ |
| 3. 私は何か変わったことがあったとき、神（仏）の恐ろしさを感じずる。 | _ _ _ |
| 4. 私は自分に何か悪いことが起こったとき、神（仏）の罰を受けたのではないかと感ずる。 | _ _ _ |
| 5. 私は悪魔 <small>あくま</small> に誘惑 <small>ゆうわく</small> されているのではないかという気がする。 | _ _ _ |
| 6. 友人や近所の人や勉強仲間と、宗教のことについて話し合う。 | _ _ _ |
| 7. 家族に、自分の信仰や宗教活動について話す。 | _ _ _ |
| 8. 聖書 <small>せいしょ</small> や経典 <small>けいてん</small> など、宗教に関係のある本を読む。 | _ _ _ |
| 9. いろいろな出来事を宗教に関係させて考える。 | _ _ _ |
| 10. 宗教団体の募金運動があるとき、進んで献金する。 | _ _ _ |
| 11. 宗教上のきまった日（祭日など）には寺院（神社、教会）に行く。 | _ _ _ |
| 12. 家族で食事のとき、感謝の祈りをする。 | _ _ _ |
| 13. 宗教上のきまった日に墓参りをする。 | _ _ _ |
| 14. 寺院（神社、教会）でおこなっているお勤めや修行など、宗教的行事に参加する。 | _ _ _ |
| 15. 身の安全や入試合格などの祈願のため寺院（神社、教会）に行く。 | _ _ _ |
| 16. おみくじや占いをする。 | _ _ _ |
| 17. お守りやおふだなど、魔 <small>ま</small> よけや縁起 <small>えんぎ</small> ものを自分の身のまわりにつけている。 | _ _ _ |

ご協力ありがとうございました。